

豊栄病院薬剤部のメンバー



看護部との打ち合わせ



薬剤の準備



患者さんへの服薬指導



中央は小田薬剤部長

3 持続可能な社会を築く
11 健康と福祉を強める
SDGsに関連する取り組みとして
ロゴマークを表記しております。

病院薬剤師の特徴

- 1 チーム医療の一員として治療に参加する
直接患者さんの役に立てる
- 2 周りに経験豊富な先輩薬剤師がいる
自然と学べる・成長できる
- 3 目指せる資格が多い
興味のある分野を掘り下げられる

病気がケガの治療に変わってはいない「薬」。それを取り扱うプロとして活躍するのが薬剤師です。医師が処方する処方箋をもとに薬を用意する「受け手」の印象が強いかもしれませんが、病院で働く薬剤師は、医師や看護師に薬の正確な情報を伝えたり、時には提案したりする「発信者」としても大きな役割を担う、チーム医療に欠かせない一員です。

病院薬剤師は扱う薬の種類も多く、がん治療をしている患者さんの抗がん剤、入院患者さんの注射や輸液も一人ひとりに合わせて正確に準備します。病院で患者さんと直接関わることで、

患者さんの治療に関わる
チーム医療の一員

病院のお仕事発見 病院薬剤師編

病院薬剤師が目指せる資格

- がん薬物療法認定薬剤師
- 感染制御専門薬剤師
- NST専門療法士
- 日本糖尿病療養指導士
- 緩和薬物療法認定薬剤師 など

がんや糖尿病、感染症など特定の分野に興味を持ち、資格を取得してステップアップしていく薬剤師も大勢います。また、薬は正しく使って初めて効果を発揮するもの。薬に関する膨大な量の情報やデータを管理し、必要な時に提供するのも重要な仕事です。病院薬剤師は今この瞬間も、薬の調剤・管理・情報提供によって、患者さんのより良い治療のために奮闘しています。ぜひ、病院薬剤師に注目してみてください。

何か分かるかな? \ 病院薬剤師のお仕事道具 /

自動錠剤分包機

複数の錠剤があっても1つの包装に1回分ずつまとめる機械です。飲み忘れや飲み間違いを防ぎます。

安全キャビネット

抗がん剤(注射薬)の調製に欠かせない特殊な設備。混合作業をする薬剤師を守ります。

散剤調剤道具

錠剤を砕いて飲みやすい粉状にする乳鉢・乳棒、計量するためのスパーテルと計量皿。

半錠ハサミ

錠剤を半分にするためのハサミです。刃先は重なりません。

軟膏混合ヘラ

近年、機械もありますが、複数の塗り薬を混ぜ合わせる際に使います。



あがの市民病院
薬剤師
細川 浩輝
 2008年入職、佐渡総合病院配属。2011年に水原郷病院(現 あがの市民病院)に配属。2013年に感染制御認定薬剤師の資格を取得。2016年に感染制御専門薬剤師、2019年には抗菌化学療法認定薬剤師の資格を取得。
 公認スポーツファーマシストの資格も持つ。



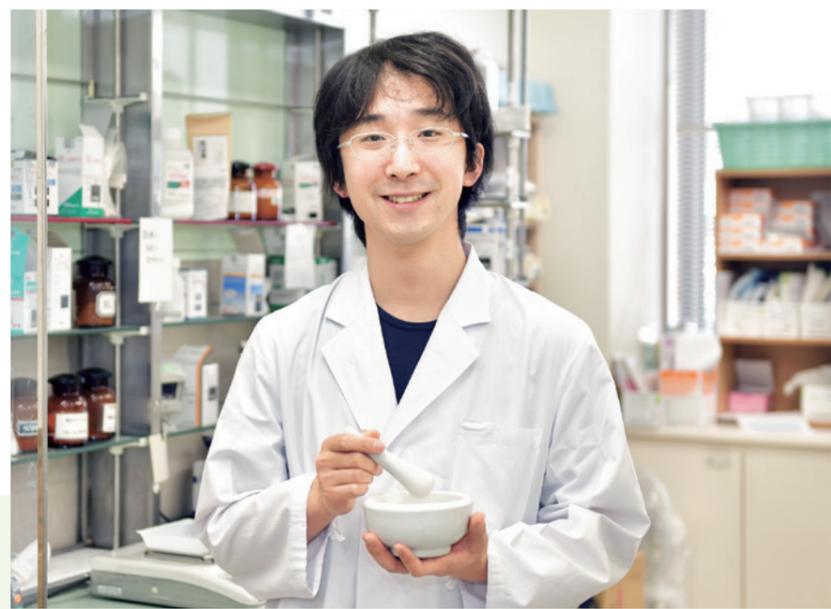
豊栄病院
薬剤師
柴野 優子

経験を重ねるほど薬剤師としての財産と大切な仲間が増えていきます
 厚生連病院は、県内各地にさまざまな規模の病院があるのが特徴です。私は今の病院が3か所目ですが、職場が変わることに薬剤師や他の病院スタッフと横のつながりができるのが良いですね。そのつながりを生かして「今これに困ってるんだけど、あなたの病院ではどうしてる？」と意見を聞いたりします。
 フライベートでは保育園に通う子どもがいます。1歳になる前に保育園に預けて職場復帰しましたが、時短制度を利用して育児も薬剤師の仕事も無理なく両立することができました。

入院患者さんの薬の用意や抗がん剤(注射薬)の調製などを行っています。チーム医療の一員として患者さんの治療にも携わっているので、例えばがん治療をされている患者さんの場合、副作用が出れば患者さんとの会話から、その患者さんに適した薬や副作用対策などを文献で調べて主治医の先生に提案することもあります。私が提案したお薬で治療がうまくいくと、この仕事をしていて本当に良かったと思います。
 「薬剤師が患者さんのためにできることはたくさんある」その思いを大切に、今後も積極的にチーム医療に関わってきたいです。

豊栄病院
薬剤師
山賀 洋和

チーム医療の一員として患者さんに貢献できていると実感
 入院患者さんの薬の用意や抗がん剤(注射薬)の調製などを行っています。チーム医療の一員として患者さんの治療にも携わっているので、例えばがん治療をされている患者さんの場合、副作用が出れば患



日々の業務から生まれた興味・関心を探求し、専門知識を身につけステップアップする病院薬剤師もいます。
あがの市民病院の細川浩輝薬剤師に話を聞きました。

— 感染制御分野の資格を複数お持ちですね。なぜその分野に興味を持ったのですか？

感染症は、悪化すると重症化するまでものすごく早く、薬に関しても、量が多ければ副作用が出たり、少な過ぎると効かなかったりするものもあります。そのため、薬剤師が薬の量をきっちり調節する必要があるなど、薬剤師として能力を発揮できる分野だと思い、感染症分野に興味を持ちました。

— 通常業務と並行しての勉強は大変ではなかったのですか。

筆記試験に加えて学会の発表や研究論文も必要なので、資格を持っている先輩方に助言をいただきながら取り組みました。大変さもありましたが、資格を取る過程で病院内外のネットワークを構築できたのはとても

良かったです。

— 薬剤師を目指したきっかけは？

高校生の時に眼科を受診して、薬剤師さんに分かりやすく親切に薬の使い方を教えてもらったのがきっかけです。ベタですね(笑)。最初は調剤薬局に就職するものだと思っていましたが、病院薬剤師なら注射薬を扱ったり、医師や看護師や様々な病院スタッフと一緒に働けると知り、病院薬剤師を目指しました。ずっと地元で生まれ育ったので、そろそろ外に出た方がいいなと思いついて、1年目は思い切って佐渡を希望し、結果、得るものが本当に多くて良かったです。

— 今後について聞かせてください。

外とのつながりはステップアップのチャンス。論文の作成や学会発表など、自院以外の活動やネットワークづくりにも力を入れていきたいです。